

オペレーティング・システム

総合科目「IT革命を解き明かす」、2001年11月19日

電子・情報工学系
 新城 靖
 <yas@is.tsukuba.ac.jp>

このページは、次の URL にあります。
<http://www.hlla.is.tsukuba.ac.jp/yas/gen/it-2001-11-19>
 あるいは、次のページから手繰っていくこともできます。
<http://www.hlla.is.tsukuba.ac.jp/yas/gen/>
<http://www.hlla.is.tsukuba.ac.jp/yas/index-j.html>

印刷配布資料 <http://www.hlla.is.tsukuba.ac.jp/yas/gen/it-2001-11-19/it-2001-11-19.pdf>

今日の重要な話

- コンピュータの内部には、ハードウェア以外に、ソフトウェアの働きによってつくられたさまざまな幻影（オブジェクト）が存在する。
 - ファイル
 - プロセス
 - ウインドウ
- 基本的な幻影を創っているソフトウェアが、オペレーティング・システムである。
- コンピュータが発達してきて、「仮想(virtual)」という考え方が広がってきた。
 - 仮想記憶(virtual memory)
 - 仮想計算機(virtual machine)
 - 仮想回線(virtual circuit)
 - 仮想現実(virtual reality)
- コンピュータに仕事をさせるには、代理人としてプロセスをつくる。

コンピュータをうまく使いこなすには、いくつかのコンピュータの内部にある幻影が存在すると信じることができるといえる。その中で、ファイルという幻影がもっとも重要である。

(役にたつ)ピットの並び。

- プログラム
- データ
 - ワープロの文書、電子メールの内容
 - 辞書
 - 音楽
 - 映画
 - 書籍(になるような内容)
 - テレビ番組(になるような内容)

コンピュータを扱う上で重要な幻影

- ファイル
- ディレクトリ（フォルダ）
- プロセス
- ウインドウ

画面には表示されないものが、存在すると思えば、コンピュータの扱いが簡単になる。

コンピュータを創る側の都合で作り出してしまった不便な幻影も多い。

IT革命の時代には、コンピュータを創ってきた人の考え方が力を持つ。

例：仮想。トランザクション。

IT革命以前の例。物理（宇宙論、核、因果、・・・）、生物（DNA、・・・）、

ファイルとディレクトリ

ファイルとは

- 永続的なメモリ（ハードディスクなど）を便利にしたもの（抽象化、仮想化）。
- 情報に名前を付けるためのもの

ディレクトリとは

幻影

人間は（コンピュータがなくても）さまざまな幻影を使っている。

- 愛、正義、根性
- お金、国家
- 分子、原子、電子、陽子、中性子、クォーク
- サンタクロース

「見たことがないということは、いないということではないのです」

コンピュータの中の幻影

オブジェクト(object) 物の。コンピュータの中にはいっている人間(専門家)のようなもの。記憶ができる。コピーすると別のものになる。名詞。機能。操作。オブジェクトを操作するもの。動詞。

- コピーする(通信)。
- 保存する。
- 加工する。選別する(フィルタリング)。

保存されたものは、オブジェクト。保存する行為は、機能。

幻影は、ハードウェアとソフトウェアの両方の役割によって作り上げられる。

ハードウェア

コンピュータを構成する、幻影以外のもの。目に見えるもの。

- CPU
- メモリ
- ハードディスク、光磁気ディスク、フロッピー・ディスク、CD-ROM、DVD-ROM
- キーボード
- マウス、トラックパッド
- ディスプレイ

ソフトウェア

- ファイルに名前をつけるための仕組み
- ファイル名の一覧表を含んでいるもの

ファイルの利便さ

- 物理的な記憶媒体によらずに、データを同じ方法であつかえる。
- 物理的な記憶媒体を、細かく分割して使える。
- 名前の管理をコンピュータがしてくれる。

10年前のコンピュータ：使いたいソフトウェアのフロッピー・ディスクを目でみて探し、コンピュータに入れて、リセットする。

ファイルの性質

- 名前がある。
- 内容がある。内容は、符号化された情報やプログラム。
- 属性がある。
 - 所有者（誰のものか）
 - 時刻（いつ作ったか）
 - 保護（内容を読み出せる権限があるかどうか、内容を変更する権限があるかどうか）

ファイルの分類、テキスト・ファイル

ファイルの内容による分類

テキスト・ファイル（text file） 内容として符合化された文字だけを含むファイル
 バイナリ・ファイル（binary file） テキスト・ファイル以外のファイル。CPUが解釈できるプログラムや画像・音声データを含んだファイル。

ただし、「文字」といっても、ASCII という方法で符合化されたものだけを指すことがある。日本語の漢字を含むファイルの場合、テキスト・ファイルとして扱えることもあるが、バイナリ・ファイルとして扱わなければならないことがある。たとえば、インターネットでファイルをコピーするプログラム（ftp）では、漢字を含むデータをコピーする時に、バイナリ・ファイルとして扱う必要がある場合がある。

テキスト・ファイルは、次のような所で使われている。

- 電子メールの 1 つひとつ
- ネットワーク・ニュースの記事 1 つひとつ
- WWW のデータのうち、HTML で書かれたもの
- ソース・プログラム

テキスト・ファイルを作ったり、内容を修正するには、テキスト・エディタ (text editor) というプログラムを使う。テキスト・エディタは、ワープロと似ているが、文字に飾りを付けたり、図を入れたりすることはできない。

実習室のパソコンには、「メモ帳」、「秀丸エディタ」という名前のテキスト・エディタが使えるようになっている。Unix サーバには、emacs (mule) という名前のテキスト・エディタが入っている。

オペレーティング・システム

オペレーティング・システム (Operating System, OS) とは

- 基本ソフトウェア (プログラム)。
- 電源を入れて、使えるようになった時に動いているプログラム。(オペレーティング・システム以外のプログラムは、すべてオペレーティング・システムの働きで実行される。)
- コンピュータの「顔」を作る。基本的な考え方と操作方法とを決める。同じハードウェアでも、違うオペレーティング・システムが動く、考え方も操作方法も違う。
- ソフトウェアにより、基本的なもの (幻影、オブジェクト) を提供する。
 - ファイルとディレクトリ
 - プロセス
 - ウィンドウ、アイコン
- 管理職。ハードウェアを管理する。メモリ管理、CPU 管理。

オペレーティング・システムのメモリへの読み込みと実行

徒然草(つれづれぐさ)。八になりし年。最初の仏問題。

OS は、他のプログラムを実行するプログラムである。他のプログ

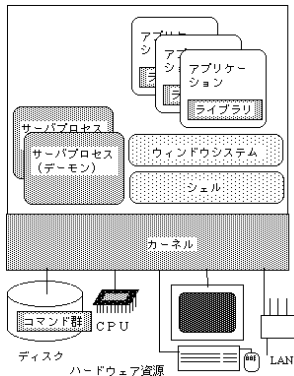
TSS (Time Sharing System) では、1 台のコンピュータを大勢の人で同時に使う、一人ひとりとは、自分で占有しているかのように見える。

「パーソナル・コンピュータ」の考え方は、比較的新しい。

構成要素

- カーネル
- シェル (User Interface)
- ウィンドウ・システム
- コマンド群
- Application Programming Interface (API) (ライブラリ、システム・コール)

API は、ソフトウェアを創る人にとって重要。その他の要素は、一般利用者にも関係してくる。



図オペレーティング・システムの構成要素

一番人間(利用者)の目につきやすいのは、シェル。

シェルの機能

- プログラムの実行

ラムは、OS の力を借りてはじめて実行される。

では OS は、誰が実行するか？

ブート・ストラップ (Boot strap, 靴ひも)。ほら吹き男爵は、底なし沼に落ちた時に、自力で脱出するために、自分の靴ひもにつかまって脱出した。

BIOS がブートローダをメモリに読み込み、ブートローダを実行する。

ブートローダが OS をメモリに読み込み、OS を実行する。

BIOS (Basic Input Output System)、ROM Monitor。OS をハードディスクからメモリにコピーして、OS に制御を渡すプログラム。ROM (Read-Only Memory) という、少容量の不揮発的なメモリに入っている。古いシステムでは、(フロッピー・ディスクへの) 基本的な入出力の機能が含まれていた。

オペレーティング・システムの種類

- Microsoft Windows 95/98/2000/NT
- MS-DOS
- Unix, Linux
- MacOS

ソフトウェアを買う時、自分のパソコンの OS で動作するものを買う。(CPU の種類も大事。同じ OS でも CPU の種類がプログラムは違くと動作しない。)

自分が使いたいソフトウェアが動作するような OS と CPU を積んだパソコンを買う。

歴史

- Loader
- Monitor
- バッチ処理
- TSS (Time Sharing System)
- ワークステーション用 OS
- パソコン用 OS
- ネットワーク OS, 分散 OS, 実時間 OS

- ウィンドウの重なり調整
- キーボードの切り替え (フォーカスの切り替え)。どのプログラム (プロセス) にキーボードのデータを送るかを決める。
- ファイルのコピー

仮想記憶 (仮想メモリ)

仮想記憶とは、オペレーティングシステムの働きにより、実際に備えているメモリ容量よりも大きなプログラムを動かすための仕組みである。

コンピュータには、2 種類の記憶するためのハードウェアが使われている。

メモリ (memory)、主記憶 (main memory, primary storage) CPU と同じく、半導体で作られている (IC)。速度が速く、値段が高い。CPU が直接データをアクセスできる。(電源を切ると、内容が失われる。)

二次記憶 (secondary storage) ハードディスクなど。半導体のメモリと比較して、速度が遅く、値段が安い。CPU が直接データをアクセスできない。(電源を切っても、内容は保存される。)

仮想記憶を使うと、メモリが 100 M バイトしかないコンピュータで、200 M バイトのメモリを使うプログラムを実行することができるようになる。

もともとは、1 つのプログラムで実際のメモリ容量以上のものを使うための仕組みである。最近では、複数のプログラムが使うメモリの総量で考えることもある。

仮想記憶の基本的なアイデアは、すぐに使うところだけを速いメモリ (IC) に、当分使わない所を、遅いハードディスクに置き、ディスクとメモリの内容を入れ替えながら仕事を進めることである。この時、速いメモリを主記憶 (main memory, primary storage)、遅いハードディスクを二次記憶 (secondary storage) とする。

置き換えアルゴリズム

主記憶が足りなくなった時に、どうするか。

- OPT アルゴリズム。最も遠い将来まで利用されない部分を二次

- 記憶へ。
- FIFOアルゴリズム。最も早い時刻に読み込まれた部分を二次記憶へ。
 - Randomアルゴリズム。ランダムに選んで二次記憶へ。
 - LRU((Least Recentry Used))アルゴリズム。最も長い時間参照されていない部分を二次記憶へ。

一番いいのは、OPTアルゴリズムだが、実現不可能。未来の情報を使うので。LRUは、過去の情報を使って未来を予測する方法。

野口悠紀雄の「超整理法」の押し出しファイルは、LRUアルゴリズム。

アルゴリズム(手法、算法)とは、問題を解くためのあらかじめ記述された定義の明確な規則、あるいは、指示の集まり。日本語などでも書くこともできる。直接的にはコンピュータでは実行できない。なんらかの方法で実行できるようになったものは、プログラムである。

仮想という考え方

コンピュータ由来の「仮想」の意味

仮想記憶は、「仮想」という言葉が付く言葉で、もっとも基本的なもの。

- 仮想記憶(virtual memory)
- 仮想計算機(virtual machine)
- 仮想回線(virtual circuit)
- 仮想現実(virtual reality)

ファイルは、ハードディスクを仮想化したものである。

類語：論理(logical)（物理、物理フォーマット / 論理フォーマット）、抽象(abstract)

反語：実(real)

一般の辞書に現れる「仮想」の定義

辞書の定義は、今一つ。仮想記憶との類推で仮想という考え方を押さえたい。「仮想敵国」の「仮想」と「仮想記憶」の「仮想」は別

シミュレータ：現実世界の予測に使うもの。数式でモデル化して計算で予測する。実際にやるとコストがかかるもの、取り返しがつかないものをコンピュータの中で実行する。現実の代わりにはならない。（エミュレータは、本物の代わりに同じように使える。）

- フライト・シミュレータ

仮想回線(virtual circuit)

インターネットで通信しあう2つのプログラムは、それらが動作している2台のコンピュータがあたかも物理的な回線で直結されているかのように見える。

実際には、間に何台ものルータと呼ばれる機器がある。

仮想LAN(Virtual LAN, vLAN)

遠く離れた場所のLAN(Local Area Network)を、インターネットのようなパブリックなネットワークを使って相互接続して、あたかも同じLANに存在するかのごとく見せかける。

ネットワークが別であることを意識しない。暗号化が大事になる。

仮想現実感(virtual reality)

高度なコンピュータ・グラフィックスやサウンドの技術を使って、実在しないものを（コンピュータの中に）実在しているかのごとく見せかける。

人間が働き掛けると、現実と同じように応答する。

仮想・・・

- 仮想都市、仮想社会
- 仮想大学、仮想教官、仮想学生
- ...

仮想と現実の違い

現実と仮想の違いは、存在するのか。

現実とは、何なのか。

物である。

仮想(広辞苑)
仮に考えること。仮に想定すること。例：仮想敵国。
仮想敵国(広辞苑)
a hypothetical [potential] enemy。
virtual-形A(比較なし)(研究社新英和中辞典)
1(表面または名目上はそうでないが)事実上の、実質上の、実際(上)の：

It was a virtual promise . (約束ではないが)約束も同然だった /

He was the virtual leader of the movement . 彼はその運動の事実上の指導者だった .
2【光】虚像の(< - > real) : a virtual image 虚像 .

仮想計算機(virtual machine)

ハードウェアには存在しないが、実際の計算機と同じように命令セット、メモリ、入出力など機能をソフトウェア的に実現したもの。

IBMメインフレーム用(1970年代)。
1台のハードウェアで数種類のOSを動かす。
Virtual PC, Real PC, VMware
Windows PCのハードウェアと同じような動きをする。
MacintoshやLinuxでWindows用のプログラムを実行するために使う。
vMac (Virtual Macintosh)
VirtualGameStation
Java仮想計算機
Java言語で書かれたプログラムを実行するための仮想計算機。

Java仮想計算機を、いろいろな環境(Unix, Windows, Macintosh, 携帯電話)でソフトウェア実現すれば、Javaで書かれたプログラムがそれらの環境でそのまま動作する。

エミュレータ: 別のシステムで、本物のシステムと同じ動きを真似するソフトウェア。本物は、必ずしもコンピュータ全体(計算機)でなくてもよい。

- Wine: Windowsのソフトウェア部分(API)をエミュレートする。

現実も仮想も、脳の働きによって作り出されたもの。

プロセス

プログラムとプロセス。

プロセスとは、オペレーティング・システムの働きにより、二次記憶に保存されていたプログラムがメモリ(主記憶)に読み込まれ、実行可能になったもの。

単にファイル(ハードディスク)に入っている、プログラムはプログラムである。1つのプログラムを同時に2個動かすことを考えると、プログラムとプロセスの違いがわかる。

1つのプロセスから見ると、普段は自分一人で全部のコンピュータのハードウェアを利用しているように見える。コンピュータの仮想化の最初。

プロセスは、時々、他のプロセスからデータを受け取る(プロセス間通信)。

プロセスの類語

- プロセス
- タスク
- ジョブ

利用者の代理

プロセスは、コンピュータの中で利用者の代理という意味がある。利用者は、コンピュータが持っているハードウェア資源を利用したい時、直接コンピュータの中に入り込むことはできない。そこで、代理人としてプロセスを作る。プロセスは、利用者の代わりに、コンピュータの中で活動する。

プロセスの操作

- 生成(作成)
- 消滅(削除、終了と強制終了)
- 切り替え

- (プロセス間通信)

プロセスの保護

あるプロセスが、他のプロセスやOSのメモリ内容を破壊しないようにする。

プロセスの生成・消滅

プロセスを作るには、プログラムを実行する。WindowsやMacintoshでは、プログラムが入っているファイルのアイコンをダブルクリックする。Unixでは、プログラムが保存されているファイルの名前をキーボードで打ち込む。

プロセスを消す（殺す）には、実行しているプログラム（プロセス）の終了の手順を行う。

ダブルクリックで、「画面が変わる」と思うか、「プロセスがつくれる」と思うか。

プロセスの強制終了

時にプロセスを強制終了する必要が出てくる。

- Unix
 - kill コマンド、^C
- Windows
 - Alt+Control+Delete キーを押し、タスクマネージャを実行する
- MacOS
 - Command+Option+Escape

アクティブ・オブジェクトとパッシブ・オブジェクト

コンピュータの中のオブジェクトの分類

- active
 - オブジェクトに自発的にメッセージを発する
- passive
 - 何かメッセージを受け取った時だけ返事を出す

ファイルは、passive、プロセスは、active なオブジェクトに分類さ

れる。ただし、プロセスは、人間から発せられるメッセージを待っていることもある。

コンピュータは、時計の機能をのぞいて、passive である。コンピュータを使う時には、人間が active にならないといけない。

テレビを見ている時、一斉授業を聞いているだけでは、人間は passive である。大学生は、active になることが求められている。

まとめ

- 幻影
 - オブジェクト
 - ファイル
 - ディレクトリ
 - プロセス
 - アクティブとパッシブ
- 仮想
 - 仮想記憶
 - 仮想現実感

画面の裏側にあるオブジェクトが見えるかどうか。

来週の試験